

篠山市 Sasayama

篠山市では、丹精込めて育てられるお米や黒大豆、丁寧に手入れされた田畑や里山、山の斜面を利用した登り窯、そこから生まれる素朴で重厚な丹波焼、歴史の厚みを残す商家や武家屋敷、その町並み、大書院を囲む石垣とお堀、五穀豊穡を祈る祭りや民俗芸能、丹波杜氏の造り出す銘酒、美しい田園風景などを文化・芸術と捉え、これらに関わる生業を創造産業としています。また、地域固有の文化・地域資源(食・農・里山)の保全と活用、地域の拠点・空間・景観形成、農業の六次産業化や着地型観光、空き家の活用など新しい価値や文化、産業を創出し、市民の暮らしの豊かさを高める「創造農村」の実現をめざしています。2015年4月に文化庁「日本遺産」に「丹波篠山デカンショ節ー民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶」というストーリーで認定され、同年12月にユネスコ「創造都市ネットワーク」のクラフト&フォークアート分野で加盟を認定されました。

これからも、CCNJの幹事団体、UCCNの加盟都市、日本遺産の認定都市として、小規模都市ならではの利点や特徴を活かしながら、創造都市のモデルを創り、国内外に発信していきます。



酒井 隆明 市長

1954年兵庫県篠山市生まれ。弁護士、兵庫県議会議員を経て、2007年2月篠山市長に就任。現在3期目。農業の都、自然と文化、美しいまちなみと田園風景など、篠山市の魅力を活かしたまちづくりをめざす。それらの取り組みにより、2015年4月に文化庁「日本遺産」に認定、同12月にユネスコ「創造都市ネットワーク」に加盟。

奈良市 Nara

日本、中国、韓国の3か国で、各国1都市を選び、各都市が行うさまざまな文化プログラムを通して交流を深める国家プロジェクト「東アジア文化都市」。本年の日本開催都市には奈良市が選ばれています。

この「東アジア文化都市2016奈良市」のコア期間を「古都祝奈良(ことほぐなら)ー 時空を超えたアートの祭典」と名づけ、9月から10月にかけて「舞台芸術」、「美術」、「食」の3つの部門で多様なプログラムを展開しているところです。3部門に共通して、「場の力」を強く意識し、奈良の持つ土地のポテンシャルを最大限活かした取り組みを行っています。奈良時代、都の中心であった平城宮跡での野外舞台公演、古都奈良を象徴する社寺や、江戸時代からの伝統的なまちなみが残るならまちを会場に現代アートの展示、奈良公園などを中心に奈良の食材を使ったポップアップレストランなど。

この事業を通じて、伝統と創造が響き合う奈良の姿を世界に向けて発信しています。



仲川 げん 市長

1976年奈良県生まれ。立命館大学卒業。2009年7月初当選で現在二期目。就任以来、様々な市政改革に取り組む。また中核市市長会では会長を務め、地方首長の立場を代表して国に対する積極的な提言活動を行う。2011年「日本を立て直す100人」(AERA)に選出されるなど、若手改革派市長としてメディア出演も多数。

国家プロジェクト「東アジア文化都市」の2016年日本開催都市に奈良市が選ばれ、「東アジア文化都市2016奈良市」実行委員会委員長として、日中韓三都市の文化交流や文化プログラム推進に取り組む。



文化庁 平成28年度文化芸術創造都市推進事業

創造都市ネットワーク日本 自治体サミット

2016年10月19日(水)

みやこめっせ地下1階 大会議室

京都府京都市左京区岡崎成勝寺町9-1

主催:文化庁/創造都市ネットワーク日本(CCNJ)

共催:京都市

表紙 二条城 二の丸御殿唐門



2016年10月19日(水) みやこめっせ地下1階 大会議室



創造都市ネットワーク日本 自治体サミット

スポーツ・文化・ワールド・フォーラムをキックオフとする文化プログラムの全国津々浦々での実施に向け、創造都市ネットワーク日本（CCNJ）加盟自治体による「自治体サミット宣言」を発表、自治体における文化プログラム推進に向けた機運の向上を図ります。

プログラム

12:30 開場

13:00 あいさつ

13:06 事例発表

テーマ：文化プログラムに向けた取組について

【登壇自治体】

・篠田 昭 新潟市長（新潟県）

・富田 成輝 可児市長（岐阜県）

・門川 大作 京都市長（京都府）

・酒井 隆明 篠山市長（兵庫県）

・仲川 げん 奈良市長（奈良県）

13:30 まとめ

13:45 自治体サミット宣言

14:00 閉会

ごあいさつ



文化庁長官 宮田 亮平

2020年、東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。

海外からの注目が日本に集まる中、これを、日本の文化を国内外に発信する「チャンス」と捉え、文化プログラムを大きな機運醸成の柱として、全国各地から日本全体を文化の力で盛り上げ、2020年以降につながるレガシーを生み出していきたいと考えております。

そのためにも、各地に埋もれている優れた文化や芸術にスポットライトを当て、育てていくことが求められています。文化芸術創造都市の取組の根幹は、行政、芸術家や文化団体、企業、大学、そしてその地域に住む方が、いかに様々な文化芸術資源を生かし、磨き上げ、長続きするようにしていくかだと考えます。この取組を進めることが、地域への誇りやそれに伴う活力の創出、ひいてはレガシーにつながるのではないのでしょうか。

「おもしろきこともなき世をおもしろく」。ここ京都にもゆかりの深い幕末の志士 高杉晋作が辞世の歌として残した言葉です。私はこんな言葉を続けたいと思います。「すみなしものは『人』なりけり」。皆様一人ひとりの力が新しい文化を生み出し、世の中を変えていきます。

スポーツ・文化・ワールド・フォーラムの開催に合わせ、本サミットが開催されることは、自治体において文化芸術活動の振興の機運を高め、全国の取組へと広がりを生み出します。皆様方の取組の一層の発展を期待致します。

プロフィール

新潟県生まれ。1968年東京藝術大学大学院美術研究科工芸専門課程鍛金専攻終了。2001年同大学美術学部長、2004年副学長を経て2005年より学長となる。2016年より文化庁長官。金工作家。代表作にイルカをモチーフにした「シュプリンゲン」シリーズがある。



創造都市ネットワーク日本顧問／
文化庁文化芸術創造都市振興室長／
同志社大学経済学部特別客員教授

佐々木 雅幸

文化芸術の創造性を活かした都市・地域再生の試みは、ユネスコ創造都市ネットワーク（116都市加盟）や欧州文化首都（EU主催、1985年開始）、さらには東アジア文化都市（日中韓三国共催、2014年開始）など、世界中で成果を挙げつつあります。この中で、創造都市ネットワーク日本（CCNJ）は2013年に発足以来72市町村、10府県、29団体が加わる組織に発展してきました。

いよいよ、キックオフを迎えた2020年東京オリンピック・パラリンピックまでの4年間の文化プログラムを、日本全国でかつてない規模で成功させ、日本社会を再生させるためにCCNJには大きな期待がかかります。京都移転に伴って機能強化される新・文化庁が2017年度に新設する「地域文化創生本部」とともにCCNJが日本再生の先頭に立って活躍されることを祈念しています。

プロフィール

1949年生まれ。日本における創造都市研究の第一人者。京都大学大学院博士課程修了、京都大学博士（経済学）。金沢大学経済学部教授、立命館大学政策科学部教授、大阪市立大学大学院創造都市研究科教授などを経て、2014年4月より現職。創造都市ネットワーク日本の顧問も務める。2008年度から2010年度まで文化経済学会<日本>会長、2010年に国際学術雑誌City, Culture & Society(Elsevierから刊行)を創刊し、5年間編集長を務めた。主著に、『創造都市の経済学』、『創造都市への挑戦』、編著に『創造農村』、『創造都市への展望』、『創造都市と社会包摂』など。

新潟市 Niigata

新潟市では、文化芸術が有する豊かな創造性を産業・観光・教育・福祉など様々な分野に生かし、魅力あふれるまちづくりや都市の活性化につなげるため、水と土の芸術祭、ラ・フォル・ジュルネ、マンガ・アニメ、食文化、Noism（ノイズム）、プロジェクションマッピングなど、本市独自の文化や個性を生かした様々な取り組みを行っています。

市民力に基づくこれらの取り組みが評価され、2013年に「文化芸術創造都市部門」で文化庁長官表彰を受けたほか、2015年には、中国・青島市、韓国・清州市とともに「2015年東アジア文化都市」に選定され、1年にわたり、3都市間の交流事業を含む337の文化事業を行いました。開催年以降も交流を継続し、東アジアにおける交流拠点の形成を図るとともに、2016年9月にはアーツカウンシル新潟を設立し、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を盛り上げる文化プログラム推進に向けて、さらなる文化創造都市の推進に取り組みます。



水と土の芸術祭2015クローニング(撮影:中村 倫)



篠田 昭 市長

1948年新潟市生まれ。上智大学外国語学部卒業。新潟日報社編集局学芸部長兼編集委員、長岡支社報道部長兼編集委員、論説委員兼編集委員などを経て、2002年に新潟市長選に立候補し、初当選。近隣14市町村との合併をまとめあげ、2007年4月、本州日本海側で初の政令指定都市移行を実現。2009年に水と土の芸術祭を初開催する等、文化芸術を活かしたまちづくりの取組が評価され、新潟市として、2013年文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）を受表彰、2015年には「東アジア文化都市」に選定される。現在4期目。主な著書に『水と土の文化王国にいたがた』、『新潟力』、『新潟の教育 マニフェストづくりへの道』（共著）等。

可児市 Kani

可児市の文化拠点として2002年7月に開館した「可児市文化創造センターala」は、2013年度に全国トップレベル15の劇場・音楽堂を支援する文化庁の「特別支援施設」に採択されました。ワークショップやアウトリーチを行い、人々の絆や生きる活力を創り出す「alaまち元気プロジェクト」や創造発信事業のひとつで一流の俳優や演出家が可児市に滞在し制作を行う「アールコレクションシリーズ」など、これまでの多くの取り組みが評価されました。

可児市は2016年4月1日、文化芸術を通じてすべての市民が地域社会でいきいきと暮らすことのできるまちづくりを目指し「可児市文化創造センター条例」を施行しました。この条例のスタートアップ事業として、英国ウエスト・ヨークシャー・プレイハウスと共同制作により音楽劇を創作します。文化芸術の持つ創造性を、地域振興や観光・産業振興など領域横断的に活用する自治体として、可児市の魅力を発信してまいります。



富田 成輝 市長

1953年可児市生まれ。名古屋大学法学部卒業。1978年岐阜県庁入庁。県ニューヨーク市駐在員、総務部長、健康福祉部長、環境生活部長を経て、2010年11月に可児市長に初当選し、現在2期目。「住みごこち一番・可児」を目指し、「若い世代が住みたいと感じる魅力あるまちの創造」の実現のために、「高齢者の安気づくり」「子育て世代の安心づくり」「地域・経済の元気づくり」「まちの安全づくり」を重点方針として、市民が満足と幸せを感じて暮らすことができるまちづくりを進めている。

京都市 Kyoto

2020年の東京オリンピック・パラリンピックは、世界から訪れる多くの人々に、京都の奥深い文化芸術の魅力と、京都ならではのおもてなしを体感していただくまとない機会です。京都市ではこうした機会を捉え、2020年に向けてあらゆる分野で多彩な事業を計画しております。

本年は、京都で活躍した絵師・伊藤若冲の生誕300年を記念した多彩な取組、来年は東アジア文化都市2017の開催都市として日中韓の文化交流事業や首長サミット、我が国の近代化の幕開けとなる大政奉還150周年を迎え、二条城での記念事業や国内開催都市とのサミットなど、京都の文化力を結集してまいります。

本年3月、「まち・ひと・しごと創生本部」にて文化庁の京都への全面的移転が決定されました。京都にとっても大きな文化政策の転換期になると捉え、文化芸術の未来への責任を感じながら、京都から文化芸術の力で日本を元気にするとの決意のもと、皆様方の御協力を頂きながら、全力を尽くしてまいります。



門川 大作 市長

1950年京都市生まれ。京都市教育長を経て、2008年2月より第26代京都市長に就任。2016年2月三選を果たす。徹底した「現地現場主義」をモットーに数多くの市民活動の場や市政の第一線を訪問。市民と共に汗する「共汗」と市民の視点に立ち、創造的な政策の「融合」をキーワードに、全国のモデルとなる市政改革を進めている。